

# 平成 29 年度市民対話集会会議録

日 時：平成 29 年 8 月 23 日（水）14 時 00 分

場 所：福社会館 6 階ホール

団体名：額田林業クラブ

額田木の駅プロジェクト

35 名

内 容：①開会

②市政ビデオの放映

③市長挨拶・説明

④団体代表要望・意見等

⑤その他要望等

市長― 皆さんこんにちは。まだ残暑の厳しい中、そしてまたお忙しい中、本日はこうして市民対話集会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。日頃は、皆さまがたにおかれましては、岡崎の市政の発展、とりわけ額田林業クラブの皆さまがたにおかれましては、地域の林業の発展に資することを目的としまして、林業の生産活動の技術、知識の習得等に努めていただきまして、誠にありがとうございます。また、額田木の駅プロジェクトの皆さまがたにおかれましては、森林整備とともに地域経済の活性化に一役買っていていただくわけでありまして、本市の森林保全に関するさまざまな事業につきましてご尽力いただいていることを感謝申し上げる次第であります。

今回は、こうして貴重なお時間をいただきまして、岡崎市の現状をご報告申し上げますとともに、皆さまがたからのご意見を伺える機会であると、大変楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

こうした形で、市民対話集会を市長就任以来、5年間で41回実施してまいりました。また、各種講演会や、要望があれば、政策説明会等さまざまな機会を捉えて、通算で300回以上、私の目指す市政についてお話をさせていただいてきております。

手前みそでありますけれども、通常は議会の審議等で承認を得れば、その行政を推進していくというのが、大体どこの自治体でも通例でございますけれども、こうした形で、市長が対話集会を重ねながら行政を行っているケースというのは、全国でもまれなケースではないか、このように思っております。これは、私の理想といたします顔の見える民主主義の政策の一つでありまして、それができるこの岡崎市というものに対しまして、大変誇りに思っているところであります。

大都市に昨今見られます、そのときの風に左右される大衆扇動型の政治というものは、結局のところ損失のみ多く、実りの少ないものでありまして、岡崎の政治は決してそんなものにはしない、こういう決意でございます。

さて、岡崎市は昨年市政100周年という節目のときを迎えまして、次の100年に向けて、ただ今新たな歩みを始めたところであります。7月の30日より開催されました岡崎城下家康公夏祭りではありますが、新たな会場となりました額田のわんパークでは多くの家族連れでにぎわいまして、また、イオンモールの夜市におきましても、大いに盛り上がったというふうに聞いております。岡崎公園等メイン会場のイベントや、締めくくりに行いました花火大会も盛大に執り行われまして、公民連携の事業というものが年々根付いてきている。このように感じているところであります。

そして、皆さんご案内のとおり、先般、福岡、大分県を中心とした九州の豪雨によります甚大な被害が発生いたしました。本市も即座に緊急消防救助隊を派遣いたしまして、他県での活動としては初めて、レッドサラマンダーを災害対策に活用したところであります。現在は募金活動も実施しておりまして、被災地の一日も早い復旧に協力してまいりたいと考えております。

昨日の夜も雨が降ったわけでございますが、集中豪雨というものはいつどこで発生する

か分からないものであります。先般の九州豪雨に続きまして、東海地方でも各地で短時間に大雨が降り、昨日は豊田では雹が降ったそうでありますけれども、本市におきましては、先日は額田で土砂災害警戒情報が発表されたところでありますが、市民の皆さんへの正しい情報提供や、適切なタイミングでの非難勧告等、引き続き災害対策にも万全を期してまいりたいと考えているところであります。

まちの魅力向上を図り、さらに充実した市民サービスを提供し続けていくためには、将来にわたって安定した財源というものが必要となってくるわけであります。これからの財政におきましては、現在本市の経済の柱となっております、自動車産業を中心としたものづくりに加えて、もう一つの柱として、本市の特徴であります独自の自然と歴史文化資産を活かした観光産業の育成が重要であると考えております。観光産業というのは、決して観光に関わる人たちが潤うものではなくて、大変大きな波及効果がございます。印刷業にもありますし、それから飲食業、さらに他の業種にもお土産を作っていただくようなことで、製造業のほうにも影響が大きく出るというふうに期待しておるわけであります。

そして、その第一歩になりますのが、現在着々と進めております、乙川リバーフロント地区の整備であります。今回のリバーフロント計画は、行政によるハード整備を目的としたものだけではなく、公共が整備したこうした空間というものを、民間の皆さまがたに上手に活用していただきまして、ここで儲けていただく。そういったことでございます。その結果、行政には税金が入ってくるわけでありまして、こうした稼げるシステムというのをつくりたい。このように考えているところであります。

こうした趣旨の下、昨年に続きまして乙川におきましては、「おとがワンダーランド」を開催いたします。これは、民間事業者が、乙川の豊かな水辺空間で楽しむための仕掛けを施し、新たなにぎわいを生み出すといった取り組みであるわけです。「新鮮野菜朝市」の開催や、「朝ごはん舟」という舟遊びを皮切りとしまして、来年1月までさまざまなメニューが展開されることになっております。毎月第4土曜日には、ナイトマーケットや星空観望会等、大人好みの企画も実施されますので、ぜひ一度足をお運びいただきたいと思います。

次に、ハード整備の状況であります。殿橋下流の河川敷の整備がほぼ終わりました、きれいに明るくなった河川敷におきましては、多くの方が散歩やジョギング等を楽しんでいた他、若いカップルは予想しておりましたけれども、高齢のご夫婦も散歩や犬を連れて、大変ここを歩くことを楽しんでおみえになります。

また、殿橋と明代橋の間におきましては、平成31年の完成を目指します、仮称乙川人道橋の工事が進んでおるところでありますけれども、現在、橋脚が2基、橋台が1基完成いたしました、目で見ても整備の状況が分かっていただけたところとなっております。この橋は、本体はコンクリート製でありますけれども、高欄や床板などの表面は額田産のヒノキを使いまして、木装風の橋として仕上げてまいりたいと考えております。これまで、この事業にあんまりいいことを言っていなかった方から、実際にできた石積み風の橋脚等を見て、「やっとう市長がやりたいことが分かってきた」という声を最近いただいております、今度は一

一つ一つ形にしていくことで、視覚的により正しく市民の皆さまがたに理解いただけるように努めてまいりたいと考えております。また、人道橋と籠田公園を結ぶ中央緑道につきましては、これも仮称ではありますが、岡崎セントラルアベニューとしまして、平成31年度中の完成を目指して、ただいま整備を進めておるところであります。

しかし、いつも申しておりますが、こうしたハード整備をすることが最終の目標ではなくて、これにより出現した空間を使って、いかにかつてのような町のにぎわいを取り戻していくか、このことが一番重要なポイントであると考えております。今後は、名鉄東岡崎駅を出発点としまして、人道橋、籠田公園、りぶら、岡崎城、乙川河川敷までをめぐる動線に沿って楽しく歩いていただき、人をまちへ呼び込むための工夫や、人々の好奇心をそそるソフト事業の取り組みも進めていきたいというふうに考えております。この動線でありますけれども、岡崎城の総構え、すなわち総曲輪と重なりまして、その形状がちょうどアルファベットのQの字に似ていることから「QURUWA」、クルワと名づけておりますので、皆さまにもどうぞこの名前をかわいがっていただきたいと思います。

また、この秋には、健康づくりを支援するために新たな取り組みといたしまして、スマートウェルネスシティ首長研究会に加入してまいります。これは、歩いて健康、食べて健康、そういったことをまちの中で実感できるように、にぎわいの他にも、健康づくりの視点からまちづくりを考えていくということでもあります。市内の公園の整備におきましても、この視点を取り入れて、額田の木材を活かした整備をしていきたいというふうに考えております。

そして、東岡崎駅の周辺整備につきましては、東岡崎駅からリバーフロント地区への安全な歩行者動線を確保するために、ペデストリアンデッキを整備してまいります。これは先ほど映像で見ていただいたものと同じでありますけれども、中央部分には新たな広場が生まれてまいりますので、完成後にはイベント会場や朝市、移動ショップ等の要素を取り入れた利活用をしてまいりたいと考えております。もし、いいアイデアがございましたら、ご提案いただければと思っております。これまでもそうしてきたわけではありますが、よりよいプランがあればそれを取り上げていきたいと考えております。

また、このペデストリアンデッキには、これまでさまざまな機会で申し上げてまいりましたように、松平元康から徳川家康に改名した、徳川家康公の25歳当時の、若き日のブロンズ像を騎馬像として、川と緑を背景に配置することとしております。

家康公像を今、制作していただいております、日本一のブロンズ像制作者であります神戸峰男先生にも、日本一の騎馬像を作る、こういった熱意を持って、今、仕事をしていただいております、大変ありがたく思っているところでございます。ブロンズ像を作るための資金は、募金活動を始めて1年で集まってしまったところでございますけれども、ブロンズ像だけではなくて台座も、台座の周辺の飾りも含めて日本一のものにしたいと思っておりますので、あと残された期間、また募金のほうをよろしくお願い申し上げたいと思います。

完成の暁には、これは単なる観光のスポットとしてだけではなくて、桶狭間の敗戦という人生の一大ピンチを独立へのチャンスとして、天下統一と太平の世を実現した郷土の英雄、

家康公の一生から、困難に立ち向かって人生を切り開いていくという精神を、岡崎の子どもたちに学んでほしいと考えているわけであります。そして、例えば高校入試とか大学入試に行くために駅前に来たとき、家康公像に一礼して、また、大きなスポーツの試合に行くときにこの前で一礼してから出掛けるような、そんな場所になったらいいな、こんなふうにも思っております。

なお、先ほど映像でご覧いただきました北東街区の新たな施設を含めまして、これらの施設は平成 31 年度当初の供用開始を予定しております。同時に、この区域におきましては、路上喫煙やポイ捨て等を規制するための新たな条例の検討も進めておりまして、これから岡崎の玄関口が、より快適で魅力的な駅前空間として大きく変わってまいりますので、大いに期待いただきたいと思っております。

そして、乙川リバーフロント地区の整備に続く取り組みといたしまして、本市特有の歴史文化資産を活かした歴史まちづくりを進めてまいりたいと考えております。岡崎市内には 13 カ所にも上る国の文化財指定の建造物があるわけですが、意外とこれが市民の方に知られておりません。ご近所に住んでいる方でも知らない方があるわけですが、そういったものをまずしっかりと市民にアピールしまして、そして、そうした点を線としてつなぎ、観光コースとして活かして、こちらから積極的に旅行者等に売り込んでいくような、そういう姿勢を持っていきたいというふうに思っております。

その基点となりますのが岡崎公園でありまして、これからは家康公の生誕の城にふさわしい史跡として、再整備をしていく必要があると考えております。ことに、公園内等に戦国期から江戸期にかけて整備されました堀や石垣は、歴史的価値が大変高いものでありまして、岡崎城の最大の売り物であると思っております。

そして、名古屋城と同様に、岡崎城も天主の建築から間もなく 60 年を迎えますことから、近い将来、あと 10 年か 15 年もすれば、城をどのように建て替えていくのか、あるいは延命措置を施すのかを、決めなくてはならないときが来ると思います。専門家に意見を伺いますと、木造で再建すれば手入れ次第で 400 年は持つが、コンクリート製のものでは、資材の劣化によりまして、100 年ぐらい経つとまた建て直しの問題を考えることになる、こういうご意見でありました。ただし、木造で再建する場合は史実に近い再建となるため、現在城内に展示しております資料を、また別に展示する場所を作らなくてはなりません。かつての天守閣というのは、言ってみれば戦時物見やぐらでございますから、史実に基づいて作れば、できるものは犬山城と同じようなものになるわけございまして、確かに歴史的な価値は高くなるわけでございますけれども、決して快適に登れるものではありません。老人ですとかご夫人、小さな子どもさん、身障者の方、こういった方が簡単に登れるものではなくなってしまうわけであります。

どちらにするかということは、市民の方にそのときに決めていただければいいわけでございますけれども、私といたしましては、そのときのために岡崎城に関する資料というものをできるだけちゃんとそろえておきたい、このように思っております。5 月 1 日号の市の広

報にも載せさせていただきましたが、現在、市民の皆さまには自宅のお蔵や倉庫に岡崎城の設計図や見取図、古い写真が残っていないか、これをもう一度ご確認いただきたいというふうをお願いしているところであります。

四国にあります高松城も同じ試みを行いまして、古い写真が、なんと平成 17 年にイギリスのケンブリッジ大学で発見されまして、お城の再建に弾みがついたということでありまして、岡崎も旧家の多い所でありますので、ひょっとするとそういうふうに見出される可能性があるんじゃないか、このように思っております。

そして、これらの事業以外にも岡崎全体を見据えたまちづくりを着実に進めております。まず、市の北部であります、旧県営グラウンド、仮称龍北総合運動場であります、ようやく県からの移管が決まりまして、平成 32 年の供用開始に向けまして整備を進めてまいります。各施設につきましては、陸上競技場を第 3 種公認に向けまして、全天候型の回収を行うとともに、観覧スタンドの設置、さらに内側の部分には天然芝を張りまして、サッカーやラグビーのグラウンドとしても活用できるように整備をしてまいりたいと考えております。

また、プールが大変老朽化が激しいわけでもありますけれども、この 50 メートルプールにつきましては、県の管理下において撤去していただきまして、跡に 8 面のテニスコートが作られる予定となっております。また、市民の皆さまがたから、新たな 50 メートルプールの要望もございますので、引き続き、これはどうしたらいいかということを検討中でございます。今後、皆さまがたにより満足いただける施設となるよう整備してまいりますので、ぜひご期待いただきたいと思います。

南部地域におきましては、東岡崎駅と並びます、もう一つの市の玄関口であります JR 岡崎駅前に、300 人仕様のコンベンションホールと、オールスイート仕様の高級ホテルをはじめとしまして、レストランやカフェを併設した商業施設が、今年の 10 月頃にはオープンいたします。外周は、見てご覧のとおり噴水のある公園の付いたものとなるわけでありまして、ここには、駅とつながるペDESTリアンデッキも整備されてまいります。なお、駐輪場につきましては、もう既に 7 月よりご利用いただいているところであります。

そして、市民待望の藤田学園の大学病院でありますけれども、こちら 24 時間 365 日の緊急医療に対応いたしまして、22 の診療科と 400 床の病床を持つ総合病院が、平成 32 年の 4 月に開院を目指して整備が進められることが正式に決定しております。去る 2 月には、今ご覧になっておられますとおり、完成予想図も発表されたところであります。平成 30 年、来年の春から建設の工事も始まります。

さらに、この大学病院の隣接地には、ヘリコプターも発着できる駅南中央公園の整備が行われます。併せて、この周辺には各種商業施設の進出も決まっております、これから南部は大きく変わってまいります、このように思っております。もちろん、そうした施設を活かすためには、接続道路や環境整備というものが需要でございます、国や県と協力してしっかり整備をしていきたいと思っております。また、額田地域におきましても、平成 30 年の春の供用開始を目指しまして、額田支所をはじめ、周辺にあります額田図書館等の機能を集約し

た仮称額田センターの整備を進めておるところであります。

さらに、市内各地の公園整備におきまして、額田の木材の活用を行い、地域独自の活性化対策についても、ただ今さまざまに検討中であります。これまで、公園といいますと、どちらかというと子どもの遊び場という認識が強かったわけでありますけれども、これからは高齢者のくつろぎの場として、あるいは、市民の健康増進をするための場所としての整備も行っていきたいというふうに考えております。そこに、額田の木材を使った施設ができないだろうか、こんなふうに考えております。現在、公園のベンチに岡崎の間伐材を活用して整備を進めておりますけれども、さらなるよいアイデアがございましたら、ぜひ提案していただきたいと思います。

そして、同じく東部であります、本宿駅周辺におきましては、駅前の再開発事業に加えて、新東名岡崎東インターチェンジや、国道 473 号線バイパスの整備によって、交通の利便性が向上したことによりまして、民間業者によりますアウトレットモールの進出が計画されておるわけであります。アウトレットモールというと、どちらかというと高級品を取り扱う場所というイメージが強いわけでありますが、東部地域にはこういった商業の場所というのが大変少ないのです。ここに生活必需品も販売できるようなものを併せて造ってほしいということを、事業者には地元の声として伝えてあるところであります。

これは、先ほどのインターチェンジ等に加えて、国道 1 号、さらには名鉄本線からも近いという交通アクセスがよいこと、岐阜県の土岐や三重県の長島のアウトレットから 50 キロという距離にある、こういったさまざまな条件が勘案されて選ばれたものであります。最近、どこから出てきているデマ情報か知りませんが、アウトレットなんか岡崎にこないぞということを、やたら意図的に流される方がいるわけですが、そのことを事業者を確認いたしましたら、物事が推進していくと必ずそういうデマ情報というのは出るものですと、今までも何回もありましたということでございましたが、民間の事業者のほうとしては、ただ今建設に向けて鋭意準備を進めている、こういうお話でありました。

まだ土地利用に関する課題は残っておるわけでありますけれども、もしこれが実現すれば、額田地域を含む東部地域の活性化に対しまして、雇用問題も含めて大変大きなインパクトのある事業になりますから、本市としても、これに対しましては積極的に対応していきたいと考えております。

その他、矢作地区におけます矢作川堤防リフレッシュ道路の整備をはじめといたしまして、サイクリングロード、公園整備等を行う他、JR 西岡崎駅におきましては、エレベーターを設ける等のバリアフリー化を進めてまいります。そして、スマートインターチェンジの開設につきましては、東名高速道路の阿知和地区が準備段階調査に先般決定されました。そして、新東名高速道路のサービスエリア、ネオパーサ岡崎につきましても、ここに隣接して、何とかスマートインターチェンジを作りたいということで、引き続き関係機関と協議しておりまして、国会議員さんを通じて、今、要望活動も行っているところであります。

このように、私の 2 期目の市政も順調に進んでおるわけでありまして、その成果をぜひ

ひ皆さまがたに感じていただきたいというふうに思っております。こうした政策の究極の目的というものは、いつも申しておりますけれども、岡崎の市民、ことに子どもたちが、自分たちのふるさとに対してこれまで以上に大きな愛情と誇りが持てる、そんな夢のある新しい岡崎にしたい、こういうことでございます。

そしてまた、ふるさとに対する愛情や誇りというのは、与えたり教えたりすることができるものではなくて、自らの心に自然に湧き上がってくるような、そういった情念の高まりであると思います。そうした愛郷心や祖国への愛情というものが誇りに育っていくものだというふうに思っておりまして、私はそうした心のある岡崎人、日本人が育つまちづくりを行ってきたいというふうに思っております。

そして、これからも次の100年を見据えて、福祉や医療、防災、教育といった基本政策の充実はもちろんでありますけれども、さらなる魅力あるまちづくりに向けてまい進してまいりたいと考えておりますので、どうぞ引き続きの皆さまがたのお力添えをお願い申し上げます。私の話を終了させていただきたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

司会― それでは、要望、提案を事前に伺っておりますので、発表していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

額田林業クラブ代表― 本日は市長さま、総合政策部長さま、環境部長さま、経済振興部長さまはじめ、関係の部のかたがた、大変お忙しいところ、こういった対話集会という企画をしていただき、まずもって厚く御礼申し上げます。今ご指名がありましたので、私のほうから、意見、要望という形で申し述べさせていただきたいと思います。

日頃から森林整備の推進、および林業、木材産業の振興についてご高配を賜り、深く感謝申し上げます。森林は、戦後の復興に重要な役割を担ってきたとともに、山地災害の防止、水源の涵養、生活環境の保全等、重要な役割を果たしております。岡崎市の区域の60パーセントを占める森林は、住民の生活に欠かせない水源林が、木材価格の低迷や森林の守り人の高齢化等で放置林が増加して、健全な森林の維持管理が困難となっております。健全な森林の維持造成に積極的に取り組んできた、私ども林業クラブ員の平均年齢も72歳というように、あと10年もすると、本当に森林の守り人がいなくなるんじゃないかということを、大変危惧しております。つきましては、水源林としての森林の維持造成の重要性をご理解いただきまして、今回は時間の関係で5点ほどに絞らせていただいて、ご意見、要望等を述べさせていただきたいと思いますので、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

一つ、岡崎市森林整備ビジョンの推進と進捗管理体制の確立。二、岡崎市独自の間伐、枝打ちなど計画的な森林整備の推進。三、重要な水源林を維持管理するための林道・作業道整備。また、既設の維持補修を含むということであります。四、公共建築物等の岡崎市産材使用の促進。五、所有山林の林地境界の明確化支援ということで、要望をさせていただきたい

と思います。

具体的に 1 番の岡崎森林整備ビジョンの推進と進捗管理体制の確立から申し述べさせていただきますと、平成 23 年の 3 月、岡崎市森林整備ビジョンという形で概要版が出されております。この中に、今私が述べました 2 から 5 についても全て網羅されております。で、この中に市民の声というようなことで林業に関する要望事項がたくさん書かれております。一つ、高齢化や代替わりによって林地の境界が不明瞭である所が増えている。森林の管理がしやすいように林道や作業道の整備を進めてほしい。林内作業車、枝打ち等の林業機械の購入補助制度や貸出制度を設けてほしい。せっかく育てた木を有効活用できるような仕組みを考えてほしい。育林、伐採費用が高くて採算が合わない。地元材や間伐材を利用してほしい。高齢で体調も優れず、なかなか山に行くことができない、どうすればよいのか。ということの意見に対しまして、岡崎市さんのほうでその施策、取り組みが書いてあります。

最初に申しました間伐の推進による木材生産機能の向上というようなことで、政策は書かれておりまして、具体的に 10 年間の計画が立てられておりまして、2020 年、あと 3 年後までに 10 年の計画の中で 3,023 ヘクタールの間伐をしようという目標に対して、現状ではかなり少ないんじゃないかなというふうに思っております。結果は結果ですので、これを 2040 年、8,739 ヘクタールを間伐するという計画になってますので、これからの整備計画の中で、そういったものをしっかり林家の方の声を聞きながら岡崎市の森林整備計画を立てていただきたいと思います。

一番お願いしたいことは、ここの進捗状況、そういったものを林家の方にある程度、1 年置きとか 2 年置きでそういう情報提供をしていただきたいと思います。実際、山に今住んでる人が本当に高齢化しちゃって、なかなか後継ぎもいないというようなことで、意欲もかなりなくなってきてますので、そういったところをぜひ、岡崎市さんのほうでわれわれをリードしていただいて、われわれを利用していただきたい、そんなふうに思ってます。

2 番目に、岡崎市独自の間伐、枝打ち等の計画的な森林整備の推進ということで、森と緑づくり税、というのは皆さんご存じだと思うんですけども、あれの採択基準が公道、要は国道、県道、市町村道から 100 メーター以内は、その森と緑づくり税で対応していただく。それから、その公道から 350 メーター以上の所は整備してもらえるんですけども、その 100 メーターから 350 メーターの間、かなりの面積を占めると思うんですけども、そこについての補助制度はあくまで個人が間伐の申請をしてやるものしかないということです。そういったところを新税なり、そういったことでぜひ検討していただきたいとともに、今の森と緑づくり税の中に、そういったところもぜひ取り入れていただくように働き掛けをお願いできたら、こういうふうに思います。

それから三つ目。重要な水源林を維持管理するための林道・作業道の整備ということで、特に林道・作業道につきましても、先ほどの岡崎森林整備計画の中にそういった大きな区域を設けて、大々的にそうやっていく中で作業道・林道の整備をやっていくということなんです。が、個々の林業家ではなかなかそれはできません。それはやはり、行政の中でそういった取

りまとめをやっていただいた中で、全体的な話し合いの下に整備をしていくと。それでひいては間伐の計画も進んでいくと私は思ってますので、それをぜひお願いしたいと思います。

それから、林道・作業道もかなり過去において整備されております。ところが、現場に行ってみると路肩が欠けておったり、舗装が割れておったり、穴が開いていたり、砂利が流れていたり、車では通れないような状態が非常に多いです。そういったところを、ぜひ岡崎市のほうで現地を見ていただいて、何とか整備をしていただきたい。または材料提供でも結構です。そういったことを検討していただきたいと思います。

それから、4番目の公共建築物等の岡崎市産材使用の促進ということで、これは先ほど市長さんのほうからいろいろ、人道橋とかいろんな公共建築の中にも取り入れていただくと。ただ、まだまだ使用量は少ないと思いますので、ぜひ岡崎市全体でそういう取り組みをお願いしたいと思います。

それから、最後になりましたけども、所有山林の林地境界の明確化支援。私も平成19年度から5カ年間で150ヘクタールの森林整備をやりました。土地の境界までは分かりませんが、施業区域は岡崎森林組合さんが測ったりなんかしてます。そういったものを今のうちにデータ化しとく、そういった作業はぜひ、今やっておかないと、もうあと10年、15年後に何か事業やろうと思っても、うちの土地はどこにあるか分からないというようなことになりますので、そういったことをぜひ取り組んでいただきたいということを、時間の関係で終わりますけども、以上5点、要望させていただいて、私の要望意見とさせていただきます。どうもありがとうございました。

司会— ありがとうございました。それでは、大きく五つのご質問いただきましたが、これについて回答のほう、よろしく願いいたします。市長、お願いします。

市長— 今日は本当に皆さん、ご苦労さまでございました。ちょっと順番が違いますけれども、まず、公共建築物等への岡崎市産材の使用の推進について、私のほうから先にお答えさせていただきます。本市におきましては、平成25年度に公共建築物等の木材利用の促進に関する基本方針を定めまして、市が実施する公共建築物の整備におきまして、岡崎市産の木材利用の推進を図ってきてるところであります。これまで、基本方針におきまして、木造化・木質化を図ることになっている低層の公共建築物16件につきまして、約600立方メートルの木材を使用し、このうち岡崎市産材を350立方メートル、割合にして約58パーセント使用しているところであります。

殊に現在建設中の仮称額田センターにおきまして、木造部分の構造材の全てにおきまして岡崎市産材を使用し、壁材などの仕上げ材で7割、下地材や角材等も9割以上、岡崎市産材を使う予定をしておるところであります。また、現在リバーフロント地区で整備中の乙川人道橋におきましても、320立方メートルの岡崎市産材を使う予定となっております。

今後の計画としましては、今年度着手を予定しております常磐・細川・北野・六ツ美北の

児童育成センター4館と、夏山小学校プール更衣室を木造で整備いたします。矢作北小学校の校舎増築事業におきましては、内装の木質化を行う予定となっております。また、今後、市営住宅の整備につきましても、共用部分の木質化を図っていきたいというふうに考えております。

公共建築物以外でも、市内の小中学校で岡崎市産材の椅子、机の整備を進めておりまして、平成30年度までに市内全校の普通教室に整備ができますよう努めていきたいと考えております。また、先ほども申し上げましたけれども、公園のベンチや遊具、さらには木柵等にも間伐材等の地元材をできるだけ使っていきたいというふうに考えております。さらに、公共施設以外では、岡崎市産材を使って戸建て住宅を新築する場合、最大で30万円を補助する制度もありますので、市民の皆さまにぜひ使っていただけるよう周知をしていきたいと思っております。以上でございます。

司会― では、続きまして環境部長、よろしくお願いいたします。

環境部長― 続きまして、1番目のご質問、岡崎市森林整備ビジョンの推進と進捗管理体制という形でのご質問いただきました。森林整備ビジョンというのは皆さんご承知のとおり、市が平成23年に100年後の望ましい森林の姿と、その実現に向けた森林整備の方向性、取り組みを示したもので、10年の短期、30年の中期の目標を定めて、平成23年以来このビジョンに基づいて森林政策を進めてきております。

しかし、今ご指摘いただいたとおり、いろんな問題がございました。例えば、森林経営に無関心な人が多いとか、あとは所有者だとか境界が分からん森林がたくさんあるとか、または、林業の担い手が不足をしておってなかなか作業がうまくいかないとか、森林木材の需要が低迷しちゃった、早い話、安くなってなかなか回らなくなっちゃったとか、そんなようなお話があって、林業分野におきまして、長年において積み重ねてきたいろんな問題があって、言い訳になってしまいますが、先ほどおっしゃっていただいたように、この計画が計画どおり進んでない部分も多々ございます。

でも、こうした状況から、これはご承知のとおり本市だけの固有の問題ではないということで、今現在におきまして、国においても森林環境税の導入を推進する動きだとか、県におきましても、先ほど少しお話出ておりましたけれども、あいち森と緑づくりの事業も平成30年度には一区切りをついて、もう一回見直しするのかつていうような議論があると聞いております。ですから、これから森林施策が大きく変わる一步になってくるのかなというふうにわれわれも思っております。

そこで、この整備ビジョンをどうするんだという質問に戻しますと、われわれとしても国だとか、今申し上げた県の動向を見極めた上で、平成32年がちょうど整備ビジョン10年目、短期目標の目標年になりますので、この取り組み、遅れてきた部分の取り返しだとか問題点を整備するために、もう一度計画の見直しをしていきたいというふうに考えておりま

す。

その見直しの際には、今ご意見をいただきましたプロ集団であります額田の林業クラブさんであるとか、後でご質問をいただく木の駅プロジェクトのメンバーの皆さまからいろんなご意見をいただきたいというふうに思っておりますし、行政というどうしてもPDCA サイクルというような形で説明してしまいますが、今言っていたのとおり、それに加えて情報の提供、例えば、何年以内ごとには中間報告をするというようなことも、今いただいたご意見を取り入れながら計画の見直しをしてきたいというふうに思っております。

これからもご指導とご協力をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

司会－ 経済振興部長、お願いいたします。

経済振興部長－ 私からは残る 3 点につきまして説明させていただきます。まずは 2 番目の岡崎市独自の間伐、枝打ち等の計画的な森林整備ということでございます。確かにビジョンでは、2020 年までは年に 450 ヘクタールの間伐を目標としております。この辺が実際のところ、平成 26 年、27 年なんかは 300 ヘクタールを切るような状況ということになっております。このビジョンに書かれる計画どおりに森林整備を進めるためには、やはり財源確保ということが必要になってまいります。

先ほどから何度か話題になっております森林環境税。これにつきましては、当然国のほうで議論されておりますし、実は税が市町村のほうに下りてきて、市町村が主体となってやるべきだという方向で今は動いております。ただ、その使途につきましては、まだまだこれから議論の余地があるという部分で、当然、間伐、枝打ち、それから林道整備にも充てられるとは思いますが、まだ確定してない状況でございます。環境部と同様、経済振興部におきましてもその動向を見極めまして、市として計画的な森林整備の再検討を行いまして、やはり財源の確保、これを通じまして、本市の独自の新たな森林整備をできる限り推進していきたいと考えております。

それから、3 点目になります林道・作業道の整備でございますけれども、やはり森林の維持管理、それから水源林との関連も非常に深いものであります。将来的には、木材の搬出のための林道・作業道が必要であることから、本市としましても適正な維持管理、それから新たな林道・作業道の整備が必要だと考えております。現在進めている林道・作業道の整備につきましては、引き続き整備を推進してまいります。また、新たな整備につきましては、森林の状況等を勘案しつつ、森林整備計画に基づき検討させていただきたいと存じております。

また、作業道につきましては、必要な森林に必要なときに整備をしていただけるよう、平成 26 年度から作業道の開設、および改良事業に対する補助事業を設けておりまして、作業道の開設、それから既設作業道を改良される方へ助成を実施している状況でございます。既設の林道や作業道の経年劣化に伴う軽微な修繕につきましては、申し訳ないですが、市から

原材料の支給をさせていただくことで地域の方や業者の方に対応しているところでございまして、これにつきましては皆さまがたのご協力を感謝申し上げます。大きな修繕、改良につきましては、地域での要望を基に緊急性、危険度を考慮しまして、市として随時修繕を進めてまいります。引き続き地域の方や利用者のかたがたのご協力をお願い申し上げたいと思います。

また、8月、最近ゲリラ豪雨等で森林のほうの災害っていうのも起きております。幸い大きなものは岡崎市では起きておりませんが、実は林道のほうにもある程度修繕が必要な箇所が出ておるということで、災害復旧事業を通じましても、こういった林道の整備については取り組んでいきたいと思っております。

私からの最後でございしますが、林地境界の明確化支援ということでございます。お話がありましたように、県が実施します、あいち森と緑づくり事業の人工林整備事業や、森林の集約化、団地化のための森林整備地域活動支援交付金制度におきまして、森林計画による事業推進によりまして林地境界の確定が進められておりますけれども、市の森林全体から申しますと、明確化はほぼ進んでないと言わざるを得ない状況であります。

それから、ご指摘のとおり森林所有者の高齢化、不在化が進む中で、境界を知る森林所有者が森林に行けなくなったり、亡くなってしまうと。そういった状況もおっしゃるとおりでございます。本市の森林整備において、所有者の了解を得ながら林地境界を明確にすることは重要な課題と捉えておりまして、現在、法改正に伴う林地台帳システム、これの構築と併せ、その仕組みの検討作業を進めるところでございます。また、森林環境税の動向に関しても林地台帳というものが重要になってくると考えておりますので、独自の施策も合わせまして、前向きに検討していくということでご理解願いたいと思います。以上でございます。

司会― よろしかったでしょうか。

額田林業クラブ代表― ありがとうございます。

司会― それでは引き続き、要望提案をよろしくお願いいたします。

額田木の駅プロジェクト代表― 本日はこのような機会をいただきまして、誠にありがとうございます。額田木の駅プロジェクトからは2点要望とご意見いたします。まず1点目は、木の駅プロジェクトへの継続支援ということで、私たち額田木の駅プロジェクトはこれで3年目に入りまして、これまでに延べ2,500トンを超える間伐材が出荷されて、その対価ということで1,300万円以上の地域通貨が利用されております。この取り組みは荒れた人工林の水源涵養機能を高めるだけでなく、額田地域の経済活性化にも貢献しており、さらに山間地に暮らす市民が森へと目を向け、議論を重ねる交流の場としても機能しています。このように、豊かな森づくりと地域づくりに寄与している額田木の駅プロジェクトへの継

続したご支援をお願い申し上げます。

2点目は、地域材利用の推進と森林環境教育の充実についてお願いします。森林再生のためには、われわれ山側の人間だけでなく、下流に暮らす市街地の市民の理解と行動が不可欠です。そのためには、森の現状やその働きに関する環境教育や啓発活動を推進するとともに、建築用材や家具、エネルギー等、さまざまな形で森の恵みを地域内で活用し、経済を回していくことが必要です。将来にわたる森づくりを実現するために、こうした環境教育や木材利用というものが一過性のイベントに終わることなく、広く長期的に継続されるような仕組みづくりを要望いたします。以上2点です。よろしくお願いいたします。

司会— ありがとうございます。それでは、以上2点につきましてご回答をお願いいたします。市長、よろしくお願いいたします。

市長— 地域材の推進、および森林環境教育の充実についてでございますが、本市におきましては、市街地に暮らす市民の皆さまに水源林の保全の大切さを分かっていただこうと、乙川リバーヘッド大作戦での間伐体験をはじめといたしまして、額田地域の森林への理解を深める取り組みを行ってきておることです。また、森林を含めた自然に関する環境教育につきましては、現在、岡崎自然体験の森やわんパークで年間200回以上、幼児から大人まで、年代に応じたさまざまな体験プロジェクトを実施いたしまして、延べ5,000人近くの方にご参加をいただいているところであります。

今後は、もっと子どもさんたちに木材や木製品との触れ合いを通じて、木への親しみ、木の大切さということを知ってもらうような取り組み、いわゆる木育にも力を入れていきたいと考えております。具体的には、保育園児、幼稚園児を対象とした体験プログラムの充実や、保育園舎の木質化等を積極的に進め、小さい頃から木に触れ、木に囲まれて育つことができる環境を整備することで、子どもたちが成長したときに森林のよき理解者となり、かつ人格形成にも役立つのではないかと考えております。

ただ今進めております人道橋は、表層を木で造るということをお話し申し上げたわけがありますし、やはり間伐材をああいものにも使っていきたいということも言っておるわけがありますけれども、これは一つのシンボル事業でありまして、木を使ってこうしたものができるというシンボル事業でございます。そしてまた、表層を木で造った橋というのは、多分10年、15年すると傷んでまいりますので、表層を張り替えなければなりません。ちょうど海洋大学の日本丸という船がありますけど、あれが何年かに一度甲板とマストを取り換えるんですけども、それを廃材として捨てちゃうのではなくて、細かく切って、木のきれいな所はキーホルダーにして売ってるんですよ。ですから、そういうようなアイデアで販売して、いいお土産として、何かうまいネーミングをつけて売り出していけないかな、こんなことも考えております。そして、売り出すときに、それにくっつけて山間地の整備の必要ということを訴えるような小さな紙も付けてはどうかかなということも考えております。

なお、地域経済という観点から考えますと、額田の中山間地を使った山間リゾート計画ができないものかと、こんなことを最初の選挙のときから私言ってきたわけですが、地元に住んでいると、どちらかというと近くの山というのは過小評価しがちでありますけど、外からおみえになった方、特に東京からサイクリングにみえてる方から、「今日は額田のほう走ってきたけども、岡崎っていうのは近くに本当に素晴らしい山があるね」、こんな声を聞いたことがあります。

今のままではまだ駄目だと思いますけど、少し枝を打ったり、景観を良くして、見晴らしを良くすると、軽井沢や蓼科とは言いませんけれども、決して負けないぐらいの素晴らしい景観、環境を持った場所があると思うんです。そうしたところを利用して、キャンプがしたい人にはキャンプができるような、バンガロー生活がしたい人にはバンガローができるような、ちょっとご年配で年を取っていろいろ面倒くさいから旅館やホテルのほうがいいという方には、そうしたものに対応できる施設を造っていったらいいなというふうに思っております。

もう既に、地元でそれに対応した試みをやってみえるかたがたがおみえになるわけですので、そうしたものも大切に、当初は公共の力を入れて整備を進めて、最終的にはそれを民間にお渡しするような格好で持っていけたらいいなというふうに私は思っております。その当初の公共というのは、今までもお話ししてきましたけども、できたら市民に会員を募って、会員制で基金をつくって、それによって整備を進めます。そして、会員になっていただいた市民の方には、施設を使うときに割引とかさまざまな優遇策をします。

しかも、岡崎の中心市街地から額田なら、1時間内外で行ける距離にあるわけですから、できれば市民の皆さんには1週間とか10日とか、長期休暇にはまとまって時間を取って借りていただく。そしてご家族でのんびりしていただければ、これは家族の融和にも大変役に立つと思いますし、しかも、片道1時間という距離ですから、ご主人がもし仕事が忙しくなれば、緊急な用事ができれば、ご主人は仕事に行って、自宅に戻らずにまたリゾートのほうに来ていただけるような、こういう利用もできてくるんじゃないかというふうに思っております。

そしてまた、よその人を排除してしまうのではなくて、よそからおみえになる方には正規の料金でお使いいただけるような、こういう方向でいったらどうかというふうに思っております。そのことによりまして、その施設を管理するために地元にも雇用もできますし、また、岡崎以外の方で、街に住んでる方でも、山の中で、自然の中で仕事がしてみたい、こういう方はおると思うんですよ。そのことによって、人口増を考えることもできるんじゃないかと、こんなふうに思っておりますので。まだこれは財政当局ときちんと打ち合わせして、具体的な政策を出して、議会の承認を受けたわけではありませんけれども、私の一つの夢として考えております。以上でございます。

司会 ― 続きまして、経済振興部長、よろしくお願いいたします。

経済振興部長― 木の駅プロジェクトにおかれましては、今年 3 月には全国サミットもやっていただいたということで、本市の名前を高めるためにも大変重要な、すてきな事業だったなと思っております。この木の駅プロジェクトでございますけども、額田地域の経済活性化にもつながるということで、森林整備を進めるためにも大変重要だと考えておりまして、プロジェクトの皆さまには、今後ともお力添えをいただきたいと考えております。ただ、継続支援ということでございますが、財政的に、市が未来永劫負担し続けていくことは限度があるかなと思っておりますが、事業継続のために必要な措置として、できる限り応援していきたいと考えております。

また、同時に間伐材の活用方法、それから販売拡大について、本市も引き続き研究を進めてまいりますので、皆さまのより活発な活動を期待しております。また、木の駅プロジェクトが成果を残せますように協力していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。以上です。

司会― よろしかったでしょうか。ありがとうございました。事前にいただいているご要望は以上でございます。それでは、その他にご意見のある方がいらっしゃいましたら挙手をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

団体代表 A― 今日はこういう場を設けていただきまして、ありがとうございます。そして、いい資料をいただきました。この「おかくら」という資料です。この資料のどこがいいかというと、まず 1 ページめくっていただきますと、素晴らしい絵が載っております。岡崎の地図ですね。東西に翼を広げたような、緑色の岡崎の絵図であります。最高の絵だなと思っております。

これを見て、直感いたしますのが、東名高速道路、新東名高速道路、この二つの道路が岡崎市を貫通してるんですね、北西から南東の方角に。まさにこれが、今日話題になっている森林に関りのある道路でございます。東名高速道路の右側はほぼ森林地帯と見ていいかと思えます。で、新東名の右側は森林というよりも山岳地帯なんですね。岡崎がいかに森を擁して、森に支えられている都市であるかということが、これを見るとよく分かります。まさに岡崎は森林都市であると思うものでございます。

60 パーセントが森林、それに比較しまして市街地、つまり宅地は 11.9 パーセントなんですね。12 パーセント程度。この部分でのさまざまな都市活動を支えている 60 パーセント。治山治水、災害防止、水源涵養、環境保全、単に木材の提供という以上に、非常に大きな都市を支えるパワーを提供しているのが、この岡崎の森林でございます。

ということで、私どもは単に林業という上流域にこもった意識と行動から脱皮すべきだと思っております。都市林業、岡崎の 100 年後を展望できるような林業の展開が、今必要かなと思っております。そのためには、冒頭の要望にありましたような、非常に地味ではあり

ますが、個々の事業をご支援いただくということが重要なと思っております。われわれは、必死にそれにかじりついて頑張っていきたいと思っております。

そう考えますと、特に岡崎の右半分の森林って一体どんな森林だろうかと、よく分かっていないですね、われわれ自身も。昔の人はみんな分かってました。で、そういう情報を共有化してたんですが、だんだん、先ほどの話じゃないですが、境界も分かんなくなるといような状況で、森林資源の現状というのが非常に不明確になっております。そこで、やはりこの環境資源、循環型の資源の在り方を、もう一度ここで客観的に調べ上げる必要があるんじゃないかと。そのためのさまざまな科学的な調査、ICT、情報技術を駆使したような調査も、ぜひ市当局におかれましてもご関心を持っていただいて、先鞭を付けていただけるとありがたいなと。白いキャンパスを本当の緑のキャンパスにしていくためにはどうするかという展望が、そこから出るかと思います。

そして、それを認証制度に乗っけてほしいなと思っております。SGEC、あるいはFSC というような国際認証制度がございます。これは、森林が適正に管理されているか、それから、生物多様性を含めて環境と折り合いを付けているかというような観点からの国際認証でございます。これがないと東京オリンピックのメインスタジアムの用材にも使わないよということが言われてるほどの、今後の未来型の認証制度でありますので、ぜひ岡崎市当局におかれましても、ちょっとご関心を持っていただいて、アプローチをしていただけますといいなと思っております。

現に長野、浜松、掛川、静岡、岐阜、さまざまな都市ではそれを取得しておられます。今年は豊田もチャレンジするという話を聞いておりますので、ぜひ、またよろしくご指導のほどお願いしたいと思います。われわれもやっていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

司会― ありがとうございます。では、環境部長、お願いいたします。

環境部長― 貴重なご意見ありがとうございます。今、言っていたいたとおり、森林の持つ公的な公益機能も、当然われわれも十分理解をさせていただいておるつもりです。ですからこそ、市のほうとしても、今までのように経済振興部林務課だけでなく、環境部のほうも森林のほうへ一歩出ていくというような体制もつくらせていただいております。

その中でいろんな問題がありますが、今、言っていたいたとおり、森林認証につきましては、額田の産材を有効に使うためにはとても大切な話だと思います。ただ、いろんなハードルが高いということも聞いております。それも含めて、FSC だとかいろんな認証制度があるとは聞いておりますが、どういう制度をしたら皆さんの育んでいただいております額田の森林が有効に使えるか、ご意見のキャッチボールをさせていただきながら勉強させていただきたいと思っております。これからもよろしくお願いをしたいと思います。

司会ー よろしいですか。ありがとうございました。それでは、他にご質問ございますか。

団体代表Bー 安城から来ました、間伐こもれび会と申します。市長には前回、熊本支援の折、表敬訪問を受けていただきましてありがとうございました。無事行ってまいりまして、非常に成果を上げました。

それで、われわれも昨年度から額田の材を有効活用しようということで、保育園を巡回して、積み木を約 2,000 個近くずつ各園に贈呈させていただいて、子どもたちの木育に少しでも貢献できればと、いわゆる林業とはちょっとかけ離れた分野で貢献できればと思って、進めてきました。

今年度もやはり、せっかくいい活動だからぜひ継続しようということで、また五つの園を選定しまして、今年度も活動を継続するということで、予定表等は今、事務局のほうにお渡ししておきましたので、市長のお暇な日程があれば、保育園の子どもたちと一緒に木のぬくもりを感じて、実際にお会いできれば非常にありがたいなということで、一言、言わせていただきました。

われわれもほとんどボランティアで進めてまして、活動資金というのは先ほどの木の駅プロジェクトの資金を活用しております。他に岡崎市さんからは特に支援金はいただいておりますけれども、市民活動の支援金 5 万円の補助金っていう制度に申請しまして、かつかつ頑張っておりますが、こういった制度のように、木育で活動するのに、今後そういういい支援の場があればまた教えていただきたいと思います。以上です。ありがとうございました。

司会ー ありがとうございました。では、ご意見ということで伺いたいと思います。ありがとうございました。その他、ございますでしょうか。お時間もまいっておりますので、これを質問の最後にさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

団体代表Cー 今日はこの会、設定いただきまして本当にありがとうございます。時間の関係で本当に短く、ちょっと質問させていただきますが、先ほどもお話がありましたけど、プロ集団っていう話で、まさに生業の立場でわれわれ今、いろいろと話をしておると、どうもそれ以外のかたがた、市民の皆さんから、我田引水的なように取られるっていう、そういう傾向が、今まで補助金の問題とか要望、林業関係で進めてきても、そういうふうにとられてしまう筋が多かったわけですけど。

いろいろなご理解をいただいて、今回は環境問題で取り上げていただくっていう、こういうことで環境と、いわゆる林政の関係の 2 頭立てで進めていっていただけるっていうことは、非常に理にかなったことだと思っておりまして、今後よろしく願いしたいと思います。

で、1 点だけ、ちょっと的が外れておるかもしれませんが、今一番心配しておりますことは、コンパクトシティっていうことが、今、国策で進められておるっていうことで、市

のほうもそういうことで国のほうから援助いただいて、そういう国策の下でいろいろ考えを持っておられるように聞いておるわけです。これは申し上げるまでもなく、旧額田の問題だけでなく、全国津々浦々、いわゆる中山間地域の問題でありますけれど、かつて3,000以上あった市町村が合併推進のために半分以下になったことで、そういう形で行政コストを下げるために都市部へ人口を集中したことで、いわゆる限界集落とかそういう所は、諦めムードのような雰囲気でおられるように、ここではないのですが、中山間地域は全国的にそういうふうに見受けられるわけです。

今、耕作放棄地がたくさん出ておるわけでありまして、耕作放棄地とかそういうものを有効に利用していただくような形で、まさに規制緩和をやっているっていただく。そういう形で、われわれの地域でも学校存続のためにも、また、地域の将来のためにも、規制緩和ということが非常に叫ばれておるわけであります。そういう中でどういうふうに考えておられるか、ちょっとそのようなところをお答えいただけたらありがたいと思っております。

司会－ 総合政策部長、お願いいたします。

総合政策部長－ コンパクトシティ、ちょっと難しい言葉ですけども、立地適正化計画。今、国が命名しておるのはそういう計画なんですけれども、この岡崎市も一つの都市計画で、都市のまちづくりで、都市の機能を駅周辺ですとか、交通便利性のいい所へ集めようという、そういう流れは確かにございます。

現に岡崎もそれを進めておりまして、これはどうしても周辺部を切り捨てるように聞こえてしまうんですけども、一方で私どもは、先ほど市長の話にありましたように、リバーフロントに次ぐ事業として、今、歴史まちづくりというのをやっております。この中には、それぞれ七つの風致、この風致と申しますのは、それまで積み重ねられました人の営みですとか、伝統、風俗ですね、そういったものを守っていきましようというのがあり、それがこの歴史まちづくり。

歴史まちづくりというと、何か神社仏閣を守るような、そういうふうには聞こえてしましますが、そうじゃなくて、額田の皆さまでも長く培ってこられました伝統、もしくは行事、お祭り、そういうものがあるかと思います。そういったものを守っていきましようというのが、この歴史まちづくりです。その中で唯一、この額田というのはエリア全体を捉えまして、額田の風致ということで、指定をさせていただいております。

やはり額田というのは、今まで培ってこられた独特の風致があると。これは広いし、地域に散らばっておるわけですけども、こういったものを守っていこうと。で、今言った風俗を守るということは、飛躍的に発展というのは難しいかもしれませんが、最低限そこに住んでみえる方というのを、維持していこうと。

先ほど話にありましたように、岡崎市は地域のほとんどが森林に覆われております。もしくは丘陵地ですね。本当の平野部というのは十数パーセントしかございませんけども、ただ、

その中で大きな都市活動を行いまして、日常の生活にどうしても必要な物品購入、もしくは娯楽、そういったものはその都市のど真ん中に集約する。額田の皆さんも、申し訳ありませんけど、東北、九州の山林、田舎とは違って、少し足を伸ばしていただければそういった、十分かどうか分かりませんが、一定の生活には不自由なくやっていっていただけると。そういったことを目指して、先ほど言いましたコンパクトシティで、とにかくまちの力は駅、交通の利便性のいい所へ集める。一方で、その周辺部で人の営みがずっと続いておるエリアは、歴史まちづくりという考え方で維持していくというのが、大きくいいますと今の岡崎市が描いておる青写真でございます。

私、以前、都市整備部長をやっております、そのときにはこのコンパクトシティのほうも実は音頭を取っております。一方では、歴史まちづくりというのもそのとき一緒にやっております。これは、ちょっと私個人的な意見になるかも知れませんが、そういったバランスの中でまちというのはつくっていくんだと。ですから、くれぐれも、コンパクトシティはちょっと色濃く見えるところだけで、縁辺部の切り捨てということではなくて。違うところで、そういう額田の風致というところを位置付けて、それは守っていきましょう、その心は、あくまで何とか暮らしを維持していきたいというふうに考えて。これが今、描いておるまちづくりかと思っております。

ちょっと大きなお話ですけど、この辺りでよろしいでしょうか。

司会― それでは、市長、お願いいたします。

市長― 先ほどもお話いたしましたけれども、これからの岡崎の都市課題では、やっぱり市域の6割を占めているのが中山間地ですので、この地域をいかに活かしていくか。これは誰が市長になっても、議会議員の皆さま方も、大変大きな問題として捉えていかなくてはならないと思っております。その中で、その中山間地をいかにしたら活用できるかということで、先ほど言ったいろんな施策を展開しておるわけでございます。

ただ、このところの市民の動向を見ておりまして、国がどうこうしてるからどうだという人ではなくて、やはり優秀な人はみんな都会に行って、大学を出て、いい会社に就職したりしてしまうわけでありまして、その人たちがなかなか戻ってこないわけですね。そのために、これは額田に限らず、郊外に住んでおみえになって、大きなうちに住んでみえる高齢者の方が、結局、年取ったおじいちゃん、おばあちゃんだけでこんな大きなうち面倒見てくの大変だし、不用心だし、それから、いざ病気というときに遠くからじゃ大変だということで、建物を処分して、今、岡崎の中心市街地にマンションがたくさん建ってきておりまして、そこに移ってきた方が大変増えてきております。

これは、必ずしも国の政策というよりは、人間の生き方がそういうふうに変わってくる中で、より合理的な生き方ということで、そういう方が増えてきているような気がしております。決してそれがいいとか、だからしょうがないってことを言ってるわけじゃないので

すけども、その傾向を見越した中で、これは国が言ってることじゃなくて、中心地のマンションの多いエリアを通常の車が入れないようにして、真ん中に公共交通機関の昔の市電をもう一回作れというような、こういうご意見も市民の方からいただいております。ですから、国の言ってることは必ずしも国が勝手にお仕着せで言ってくるわけではなくて、今の日本の社会の変化の流れの中で、こういうのをやったらどうかということで言ってくるわけであります。

岡崎市も今、その流れの中で補助金をもらうためにいろんなことやっておりますけれども、それでもうずっと行ってしまっ、山間地切り捨てなんていうことは絶対ありません。当然、中山間地は中山間地に対する有効性のある施策というのを、これは皆さま方と相談しながら、またこれから考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

団体代表Cー せっかく市長さんをはじめ幹部の皆さんがこれだけおそろいで、こうして説明していただいたわけですので、できれば時間をもっと取っていただけると。

市長ー 呼んでいただければどこでも行きます。

団体代表Cー また、ものすごくざっくばらんに、気さくに、お互いにお話し合いをできるような対話を、これからも続けていただきたいと思います。お願いします。

司会ー 貴重なご意見大変ありがとうございました。それでは、最後に改めまして市長よりご挨拶を申し上げます。

市長ー 今日は本当に暑くてお忙しい中ありがとうございました。重ねて御礼を申し上げます。いつもですと、大勢の前だとなかなか発言しにくいという方もおみえになりますので、会としてはこれで終わりますけれども、どうしてもこの場で市長に一言言いたいという方がおみえになりましたら、ここで待っておりますのでどうぞ来てくださいということで、僕はそういう方の気が済むまで、毎回お話を聞きしておるわけであります。今日はちょっとそれができないのでお詫び申し上げますけれども、そういった話し合いをしていくことが必要ではないかと。

今、東京のほうを見てますと、風が吹いたら右に行ったり、左に行ったり、訳が分からん大衆扇動政治が続いておりますけど、僕はああいうのは決して地域のためにはならないと思っております。じゃあ、どうすればいいか。顔が見える民主主義をやっていきたいと思って、この市民対話集会、これで41回目、それ以外に政策説明会、ロータリー、ライオンズ、いろんな婦人会、老人クラブ、小学校、中学校、この間大学生ともやりましたけども、呼ばれればどこでも行きますと、来ていただければ誰とでも話しますということで、300回以上

話をしとるわけですけども。

それで、中には岡崎が何をやろうとしてるか十分ご理解の上、来ていただいてお話しする方もあります。そうかと思うと、今岡崎が何をやろうとしてるか全く理解してなくて、完全に自分の思い込みと自分の考えだけで持論を展開される方もあるわけでありまして。とにかくそういった方とも話し合いをしていく中でご理解をしていただく。岡崎市が何をやろうとしてるかっていうことをご理解いただく。そしてさらに、その中からいい意見が出てくるなら、僕らはそれを取り上げます。そういう形でいい政治を岡崎で行っていきたいと思っておる次第であります。今日、皆さまがたにお答えしましたことが、全体的を射た言葉でちゃんと伝わってるとも思っておりませんが、少なくとも今、皆さま方がどういったことを心配しておみえになって、どういう問題があつてつていうことは、市の責任ある立場の者が直接耳にしましたので、今後の岡崎の施策におきまして、そうしたものをしっかりと活かしていきたいと考えておりますので、どうかご理解いただきたいと思います。

そしてまた、さっきも言いましたように、もしこういう話し合いをしたいから、こういうのをやってみたいけど、というお話をいただければ、そのとき僕が行けるか行けないかは日程によって変わってまいりますけども、また時間をつくってこういう場を持ちたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。今日は本当にありがとうございました。